

テーマ	地元建設業者とも連携し、耕作放棄地を再生・利用		
実施年度	平成23年度	解消面積	80a
取組主体	(株)YTM Farm	活用事業等	市単事業
発生要因、経緯	<ul style="list-style-type: none"> ・ 熊本県の西北端に位置する荒尾市は、東の小岱山から西の有明海へなだらかな丘陵地帯が続く、みかんや梨など果樹の生産が盛んな地域であるが、一方で担い手不足、鳥獣害等により耕作放棄地が増加している。このような中、市は、耕作放棄地の解消にかかる重機の燃料代を補助するなど、耕作放棄地の解消を推進している。 ・ オリーブの産地化を進める市では、オリーブ10万本の植樹を目指しており、解消した耕作放棄地に、高齢農家でも取り組みやすい作物として、また主要作物の補完作物としてオリーブの栽培を推奨している。 ・ 地元を離れ、他産業に勤務していた取組者は農商工連携に関するセミナーに参加した際、農業者人口の減少と若年層の雇用率低下を懸念し、「地元に新たな産業を」との考えの下、農業生産法人で解決できないかと考え、平成23年に農業生産法人(株)YTM Farmを設立した。 		
取組の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 法人は平成24年に耕作放棄地0.8haを取得、再生し、オリーブのほかハーブや薬草など、新規性、希少性のある作物を導入、加工販売を行うことで農業経営の安定化を目指すこととした。 ・ 設立に当たっては考えを同じくする地元の建設業者2社が参画し、耕作放棄地の再生整備は建設工事の閑散期を利用するなど、建設業との連携による耕作放棄地の再生・利用を進めた。 		
取組の効果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 少量ながら収穫したオリーブは品評会で非常に高い評価を得ており期待が大きい。またハーブの生産を知った業者から取引のオファーがあるなど、付加価値やブランド化が醸成されつつある。 ・ 耕作放棄地を活用した事例はモデルとして地域に波及、他の法人も耕作放棄地の解消に取り組むなど地域の耕作放棄地の解消に繋がっている。 ・ イノシシの隠れ家となっていた耕作放棄地が解消され獣害が軽減するなど、周辺農地へも好影響となっている。 		
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ オリーブは植栽して間もなく、本格的な収穫は数年後であるため、それまでの経営の安定化が課題。 ・ 経営農地についても順次拡大する予定。このため、農地の権利取得の際に地権者との交渉がスムーズに進むよう、安心して農地管理を任せてもらえるような経営を目指す。 ・ 事業を軌道に乗せ成果を上げることで周辺にもオリーブ栽培の可能性を広め、オリーブの特産品化、活性化、雇用の創出に繋げていく。 		
事例写真	 <p>耕作放棄地解消前</p>  <p>耕作放棄地解消後</p>		
連絡先	荒尾市農林水産課 TEL 0968-63-1111(代表)		